

2020.07.16.Thursday

学修・教育開発センター（CRED）



「東京家政大学の歴史から学ぶ」ねらい

授業は折り返し地点となり、自校教育のパートが終了しました。このパートの授業設計について、児童教育学科の走井洋一先生にお伺いいたしました。



走井洋一教授
家政学部児童教育学科

自校教育科目であるため本学の歴史を扱うことが求められるわけですが、歴史を伝えることに主眼を置くと、学生からすれば自分と関わりのないことと感じてしまう可能性を排除できません。ですから、本学の歴史を引き受けて未来を切り拓くこと、つまり、今の自分、そして未来の自分をどう形づくっていくのかを学生自身が考えられるように「歴史を学ぶ」ではなく「歴史から学ぶ」をコンセプトに掲げて実施しています。

「歴史から学ぶ」ために、大きく分けて
①自分たち自身で自学科の紹介をする、②SA

に自分の学びへの思いを話してもらい、③大学設置期及び本学創立期に関する資料からジグソー法で当時の学生の思いに迫っていく、④現在の研究・社会貢献活動等から本学の未来を構想する、という4つのパートを用意しています。どのパートでも、担当教員はファシリテーターとしての役割に徹し、学生自身が、プレゼンや資料などから事実を引き受けて、自分の考えをまとめ、グループ内で発表することを通じて、今の自分、そして未来の自分を形づくる支援をしています。

授業の感想を紹介します

自校教育のパートが終了した段階で、受講生に「本学で学ぶ意味」そして「これからの4年間の学修」をテーマにレポートを書いていただきました。いくつかのレポートを紹介します。

- 私が本学で学ぶ意味は、これから社会に出て、女性として強く生きていく為です。男性に助けをもらう、守ってもらうではなく、助け合うことが第一だと思います。そのために、本学で、自分の夢を目指すのももちろんのこと、お互いに助け、助けられの人間関係を形成していくこと、たくさんの人と関わり多様性を学ぶこと、一人ですることは責任を持ってやり、できないことは人に頼ること、このようなことを4年間で学んでいきたいと思っています。そして、社会に出てたら、女性としてではなく、1人の働く人として評価してもらえようと思うので、頑張りたいたいと思います。
- 私はこのスタートアップセミナーを通して東京家政大学の歴史や現在の活動、何が必要なのかを学ぶことが出来ました。これからの4年間で女性として何が社会に必要なようになってくるかを考えていきたいと思いました。
- 私はまだ自分がやりたいことやなりたい職業がわかりません。ですが、専門教育科目でより専門的なことを学び、共通教育科目を通して自分が何に関心を持っているのかなど、視野を広げていきたいと思いました。また、本学の過去を振り返ったことで、受け身で授業を受けるのではなく、自分から学びたいと強い意志を持って学ぶことが大切であり、またそのような意思を持った人々がこれからの女性の社会進出を進めていく人だと思うので、自分も積極的に質問や発言をしていきたいと思いました。

教員からのレポート

「あたらしき智慧と技術」をSAと共に模索する



是澤 優子 教授

家政学部
児童学科

本科目を担当して2年目。今年はコロナ禍により、教室に集う授業からオンライン授業へ余儀なくされたが、個人の学修成果が昨年以上にmanaba上で見える化したためか、事前・事後課題への取り組みは良好で、Googlemeetを活用したリアルタイムのグループ活動も順調だ。そこには、歴史ある大学の資源を活かした学習を通して未来の自分を志向する学生の姿がある。

授業が半ばまで進み、昨年と比べて悩ましいのは、学生たちの「表現する身体から醸し出される雰囲気」をリモートで感じ取る難しさである。昨年をふり返る

と、教室に集う学生たちの表情や声の調子、体の向きひとつにも学びに向かう「今の気持ち」が表れていた。その様子を見て、教員とSAが臨機応変に関わりを試みるところにこの授業の面白みがあった。

媒介する機器やシステムの特性の上に授業の可能性が開かれる。生き生きとした教室の時間をリモートに置き換えるとななるのか。青木誠四郎先生は、「新しき智慧と技術とを(略)くもりなくいざやみがかん」と校歌でうたわれた。その言葉通り、今は試行錯誤の時期と思って、若いSAの方たちと力を合わせ模索している。



合同意見交換会を実施しました

6/24 (水) お昼休みにGoogleMeetを使って担当教員・SAの合同意見交換会を開催し、意見交換を行いました。

スタートアップセミナー自主自律では、授業実践で得られた知見(課題、改善した方がよい点、取り入れるとよいやり方)の共有のために、適宜授業担当者会議や教員とSAの合同意見交換会を開催させていただいています。今回は、第一回の教員・SA合同意見交換会の模様をお知らせいたします。

開催にあたり、事前にSAの代表者と打ち合わせを行い、第一回の会議では2テーマ(①オンライン授業で良かった点②オンライン授業で工夫していること、上手くいったこと)について扱うことを決定し、SAの進行の元、教員12名、SA9名、オブザーバーとして職員2名が参加しました。

良かった点としては、オンライン授業となったことで、課題の提出状況が見える化されるので昨年に比べ予習状況が良いように感じる/グループワークでの発言の差が生まれにくいなどの声が多く寄せられました。

一方で、上段教員からのレポートにて是澤先生からご指摘をいただいている点でもありますが、受講生の様子が見えにくい/顔が見えない状況なのでグループワークを行う上で(新入生が)少し活動しづらそうといった意見もあがりました。

また、教員とSAの共通の悩みとしてグループワークを実施している新入生に対し、どのように働きかけを行うのか(対面授業であれば直接状況を見回ることができませんが、オンラインのため、表情などで状況を読み取りにくい)があげられ、意見交換がされました。

今回寄せられた意見をもとに授業後半部分にて事務局としてどのように改善ができるのかを考えるとともに、授業終了後に全体の振り返りとして実施される予定の教員・SAの合同意見交換会では来年度に向けてどのような点を改善したらよいのか、引き続きSAとも連携をしてみたいとおもいます。